

加藤笑平

だぶるやまのは

overlapping mountain by future for my here

会期：2018年7月21日① - 8月26日②

会場：つなぎ美術館・3階展示室 入場無料

開館時間 10時～17時（入館は16時30分まで） 水曜日休館（祝日の場合は翌日）
主催 つなぎ美術館 協力 津奈木町の方々



ふんどうし姿や左右で色・柄の異なる靴下を履く姿が印象的な加藤笑平。これが高校時代に学んだ応用デザインと関係があるのか否か定かではないが、決して奇をてらっているわけではないことは、「あいまい」という言葉に象徴される日本の文化や伝統に、作家として静かに目を凝らし真摯に向き合おうとする姿からうかがい知ることができる。グループ展に始まった津奈木町との付き合いは7年目を迎えた。生命感に満ちた筆致と色遣いが特徴の画家であり、フィジカルなパフォーマーでもある加藤笑平は「社会の多様性」が問われる今、山と海に囲まれた小さな町から新たなメッセージを発しようとしている。

（つなぎ美術館主幹・学芸員 楠本智郎）

関連プログラム

オープニングトーク

日時：7月21日（土）15:00～16:30

会場：3階展示室 参加費：無料

パフォーマンス

Double mountain into outside from past and now to stuck and stack, thinking of peaceful everyday before the atomic bomb of 73 years ago.

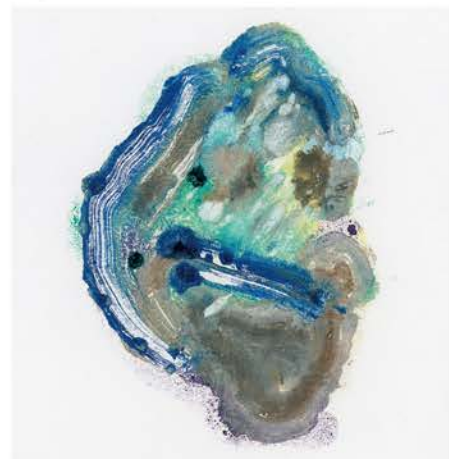
日時：8月5日（日）11:00～16:00

会場：3階展示室 参加費：無料

加藤笑平/showhey KATO 美術家 an Artist.

1983年、東京都生まれ。2005年より熊本県・天草市、2014年より福岡市在住。

今回は津奈木町との今までの関わりと最近の自らの環境から得たもの、それを持って津奈木町の山手にある巨石や水源を拠点に町内を放し、各地で制作をし、それをまた巨石や水源がある森の中と美術館内で展示をします。津奈木町との「対話」のような作品群になると思います。



《Type of Life・"mass" of romantic go-》（部分）

overlapping mountain だぶるやま

by future for my here.

重なり合うイメージ。
初観を定置して
繰り返すことは 未来そのものを 作り上げていくことに
なっていく、たいてい得るのではないが思っている。
それは正と不正の間に相対するものではない。ただ、どこにある。
それは「今」のこと。
ひとつのものを特に取り上げたことは、正とは言えず、今現存から
未来へ向けて 誠実であることは言えないと感じ、生きている。
今、このつなぎの地に立ち、自らと、境界の往来を
日常化する手段として、「定置させる場、とタミナル」
として、「開かれた場所、器とポイント」による動きを
作品化している。→□→□→□→□→□→□→□→□
また、最大限に動きのある日常と動きのあるままに「かた」にして
目の前に載せ、それによって強く思うのがある。
ただ、それは「今」のこと。と。

showhey KATO 2018 6.22



a) 2017「川の交わり / 小さい時の井戸の感覚」
福岡アジア美術館・企画ギャラリーC
b) 2018「混濁のさかめ、塊のへんじ オブ・tic go.」九州芸文館
c) 2018「古墳のまわりを走る」IAFshop*

※すべて参考作品
photo by a) 原口良太 b・c) 山中慎太郎 (Qsym!)

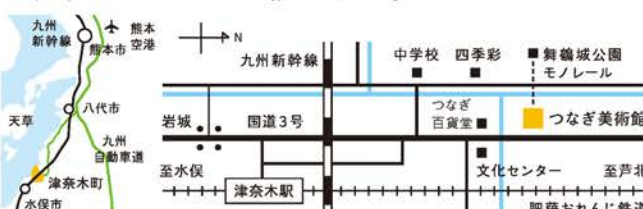


つなぎ美術館
TSUNAGI ART MUSEUM

〒869-5603 熊本県葦北郡津奈木町岩城494

TEL0966-61-2222 (FAX0966-61-2223)

http://portal.kumamoto-net.ne.jp/town_tsunagi/



熊本ゆかりの優れた若手作家（39歳以下）の創作活動を支援するため、つなぎ美術館展示室を作品公開の場として無償提供する取り組みです。

U-39 KUMAMOTO